

## 大地の遺産 100 選の選定

大地の遺産百選選定委員会

岩田修二・渡辺悌二・菊地俊夫・中井達郎

有馬貴之・新名阿津子・松本 淳

大地の遺産 100 選選定にあたり、日本地理学会のジオパーク対応委員会を中心に、専門の選定委員会を創設し、保護や保全が必要な日本の「大地の遺産 100 選」を選定した。具体的には、3 回の大地の遺産の概念に関するシンポジウムと 4 回の候補地の選出アンケートを行った。なお、委員のメンバーは地形、地質、気候、水文等を専門とする自然地理学者と都市、農村、観光、文化等を専門とする人文地理学者からなる。本稿では、「大地の遺産 100 選」の選定作業の過程、そしてその結果について報告する。

選定委員会では、日本地理学会の会員の意見を反映すべく、候補地の列挙をシンポジウムの会場や郵送によるアンケートを行った。その結果、合計 264 ケ所の候補地が示された（重複を含む）。その内訳は以下の通りである。2012 年 3 月のシンポジウムにおいては、登壇者から 155 ケ所とアンケート回答者から 40 ケ所の候補地、合計 195 ケ所が示された。2013 年 3 月のシンポジウムでは、登壇者から 7 ケ所、アンケート回答者から 38 ケ所の候補地、合計 45 ケ所が示された。2013 年 5 月に実施した日本地理学会代議員への郵送アンケートによっては 20 ケ所が、2012 年度から行っているウェブサイト上のアンケートによって 4 ケ所があげられ

た（図 1）。

この延べ 264 ケ所の候補地のリストを基に、選定委員による各候補地への投票、および議論を 2013 年 7 月に行った。その結果、計 65 ケ所の「大地の遺産」が選定された（図 1、図 2）。2013 年 10 月時点で残りの 35 ケ所の選定作業

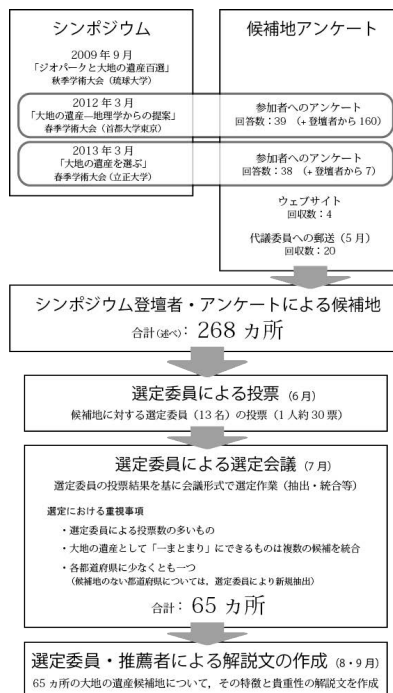


図 1 大地の遺産 100 選の選定手順。大地の遺産は日本地理学会の会員からの公募を基に、委員会で議論して決定した

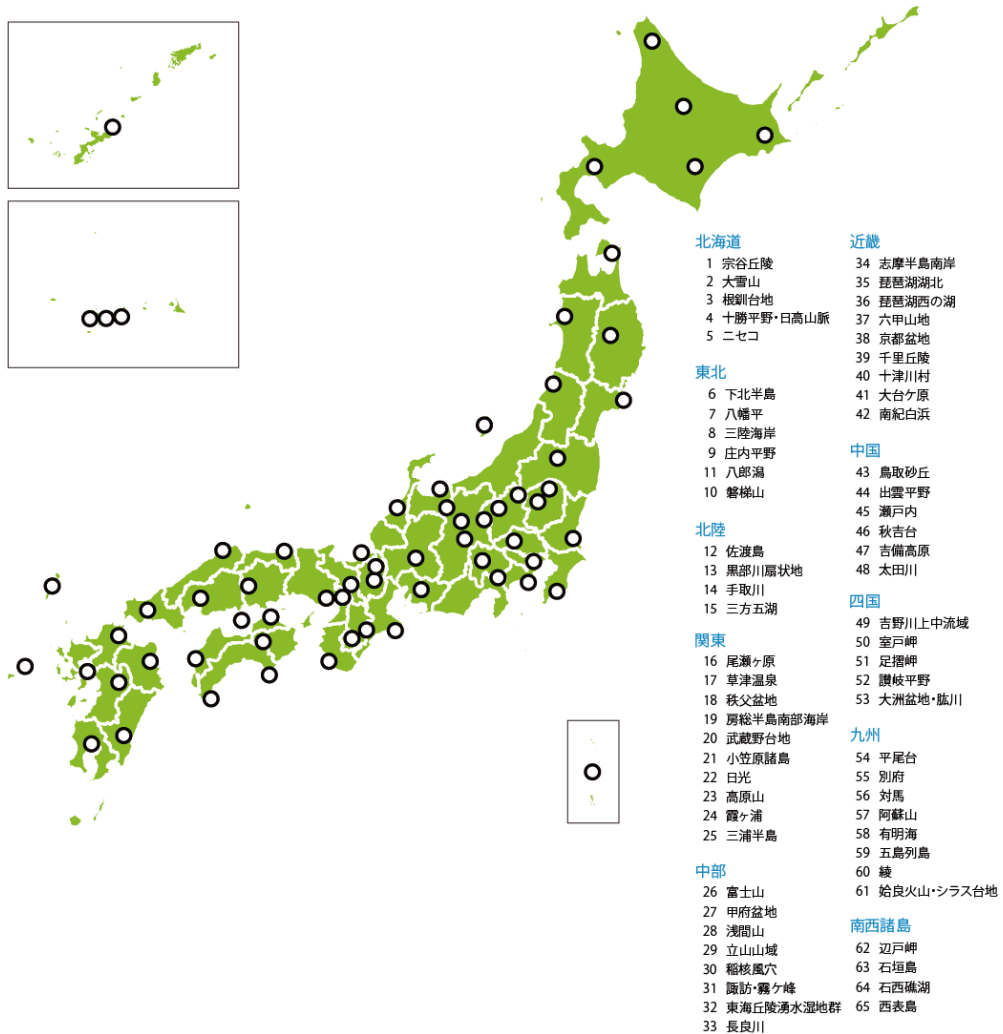


図2 大地の遺産 100 選 (65 カ所)。大地の遺産はこれまでに 65 カ所選出された。残りの 35 カ所は選定中である

を実施している。そのリストは発表会でも提示するが、例えば、根釧原野、八幡平、黒部川扇状地、甲府盆地、志摩半島南岸、足摺岬、始良火山とシラス台地などが選出されている。なお、選定には日本の中で大きな偏りが無いよう地方別に議論をし、また各都道府県に少なくとも1つは大地の遺産が選定されるように配慮した。

選定の結果、選ばれた大地の遺産は複数のサイトからなっているものが多かった。これは、候補地内の様々なサイトが、地域の特徴をよく示し、相互に関連し合っているという視点（ス

トーリー）が重視されたため、自然資源の保護や保全において地理学や地誌学の考え方が重要であることも示された（表1, 2）。

2013年10月時点において100ヶ所中、65ヶ所の大地の遺産が選ばれ、それぞれのストーリーの核も決定してきている。今後は、引き続き選定委員会を中心に、残り35ヶ所の選定や各ストーリーの精査等を進めていくこととなっている。それらについても報告時に公開する予定である。

表1 大地の遺産100選における解説文の一例(吉野川上中流地域)。選ばれた100選については、それぞれその価値評価を解説文として公表する

【場所の名称】 吉野川上中流地域
【解説】 吉野川上中流部は、西南日本外帯の四万十帯、三波川帯などの付加体の地層からなる四国山地を流れる。この地域の地層は、大局的に北北東-南南西方向の走向方向を持つため、吉野川の河道もそれに平行もしくは直交して流れている。急峻な堆積岩山地地域を流れる河川は、日本列島の太平洋側の河川の特徴であるが、特に吉野川上中流域ではその地質学的、地形学的特性により、大歩危・小歩危の峡谷のような特徴的な地形を見ることができる。また、山中の堆積岩地域には線状凹地などの斜面変動地形が(古谷, 1979)、三波川帯の結晶片岩地域には善徳地すべり(古谷ほか, 1997)のような大規模な地すべり地形が分布している。 これらの重力地形によりつくられた緩斜面には集落が立地する。これらの集落同士を移動する際には深い吉野川の谷を渡らなくてはならない。そのため、山中を移動する経路を確保するため、古くより吊り橋がかけられている。祖谷のかずら橋は観光地として有名であるが、これはこの地域の地形的特徴によって必要だったものである。このような急峻な山地地域の重力地形とそこでの人々の暮らし方が特徴的な地域である。
【その他の地理学的資源】 ・(範囲を下流側に広げるのであれば)阿波の土柱 ・(範囲を下流側に広げるのであれば)阿波池田の活断層地形(岡田, 1968; 後藤・中田, 2000)
【範囲】 吉野川上中流の河道周辺とその流域。なお中央構造線に沿って広い谷底低地があらわれる阿波池田からは下流とし、今回の対象となるのはそれよりも上流である。
【引用文献】 古谷専彦(1979) 四国山地のGravitational slideの予察的研究-三嶺・天狗塚・網附森・京柱峠付近の航空写真判読を例に。千葉大学教養部研究報告B12, 63-68. 古谷元・佐々恭二・福岡 浩・日浦啓全(1997) 善徳地すべりにおける地下侵食と地すべり移動の関係。地すべり34, 9-16.
【参考文献】 岡田篤正(1968) 阿波池田付近の中央構造線の新規断層運動。第四紀研究7, 15-26. 後藤秀昭・中田 高(2000) 四国の中央構造線活断層系-詳細断層線分布図と資料-。広島大学総合地誌研究資料センター研究叢書35。

表2 大地の遺産100選における解説文の一例(草津白根火山と温泉)。選ばれた100選については、それぞれその価値評価を解説文として公表する。

【場所の名称】 草津温泉(草津白根山含む)⇒草津白根火山(と温泉)
【解説】 草津白根火山(草津白根山・本白根山)では、約3000年前の噴火によって作られた湯釜や酒釜と呼ばれる火口湖を見ることができる(早川・由井1989)。火口湖の底からは現在でも酸性の火山ガスが噴出しており、湖のpHは日本でも最も低くなっている。河川の酸性度も高いため、山腹には中和河川もみられる。湯釜の火口には植生がほとんど見られないが、酒釜の火口斜面ではコマクサなどの高山植物、構造土などが存在する。これらの地形、水文、植生によって形成される特異な景観は観光資源としても重要となっている。 また、60～30万年の噴火により噴出した火砕流が堆積した面には、温泉地(草津温泉)が形成されている。草津温泉は、自然湧出泉日本一、「こっぼんの温泉100選」において10年間連続で日本1位となっている温泉地である。草津町の発展は温泉と共にあり、今日でも旅館やホテルは多い。また、温泉街の中心では湯畑と呼ばれる独特な文化景観や、湯もみと呼ばれる入浴法を見物することができる。また、溶岩流の斜面にはスキー場を、火砕流堆積面にはゴルフ場などを造成する事で、温泉だけではなく観光資源も作り出された(森川2007)。このような火山と観光地(温泉地)という顕著な関係性は、他にはみられない特徴的なものである。
【その他の地理学的資源】 ・常布の滝 ・リゾート開発後(バブル崩壊後)の観光地の衰退
【範囲】 貝塚ほか(2000)の地形区分(小区分)の草津白根火山(C6-6)
【引用文献】 早川由紀夫・由井将雄1989. 草津白根火山の噴火史。第四紀研究28: 1-17. 森川敏青2007. 草津温泉の高原観光都市化について-戦後の構想から発展へのプロセス。桜花学園大学人文科学研究紀要9: 117-134.
【参考文献】 貝塚爽平・遠藤邦彦・鈴木雄彦・小池一之・山崎晴雄編2000. 『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会。

## Selection for 100 remarkable earth heritage sites

IWATA Shuji, WATANABE Teiji, KIKUCHI Toshio, NAKAI Tatsuro,  
ARIMA Takayuki, NIINA Atsuko and MATSUMOTO Jun